

**令和6年度
学校関係者評価報告書
(第1回)**

令和6年5月29日(水)

**学校法人 九州総合学院
鹿児島情報ビジネス公務員専門学校**

1. 「学校関係者評価」の実施方法について

今回の「学校関係者評価」は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施した「令和五年度自己点検・評価報告書」について、本校に関連する企業等6名の評価委員（委員一覧表）に評価していただいた。

評価委員からの意見は、本校で組織する自己点検・評価委員会委員長（校長）および教職員が承り、その評価結果の内容等について要約の上、報告書として取りまとめた。

2. 学校関係者評価委員一覧表

(順不同・敬称略)

評 価 委 員	会社（企業）名	役職名	任 期	備 考
久永 忠範	一般社団法人 鹿児島県情報サービス産業協会	会長	R7. 3. 31	株式会社 フォーエバー 代表取締役
新 政行	株式会社 スマートエンジニアリング	常務取締役	R7. 3. 31	
竹下 とみお	特定非営利活動法人 鹿児島デザイン協会	代表理事	R7. 3. 31	協同組合 ドゥ・アート 代表理事
小森 昌章	株式会社 小森昌章建築設計事務所	理事	R7. 3. 31	
押井 啓一	南九州税理士会	副会長	R7. 3. 31	税理士法人 押井会計代表社員
眞邊 隆洋	合同会社 エムコミュニケーション	代表	R7. 3. 31	
萬 英治	鹿児島医療経営研究会(KMM)	顧問	R7. 3. 31	(当日・欠席)
川北 康貴	株式会社 エーアイエス	取締役常務 執行役員	R7. 3. 31	(当日・欠席)
前平 秀康	卒業生	取締役 総務部長	R7. 3. 31	(当日・欠席)
原村 真美	保護者		R8. 3. 31	(当日・欠席)

3. 委員会次第（概 要）

（1）開会

（2）学校長挨拶

就任の挨拶と本委員会の目的について説明を行った。

（3）委員長選任

本校、校長 中広 義隆委員を委員長に選出し、議長とした。

（4）令和6年度 学校自己点検評価報告

校長より、評価の変更の項目および、今後の取り組みについての報告を行った。

（詳細は後記のとおり）

（5）討議・意見交換

各評価委員から、報告に対するご意見・ご指摘をいただいた。

（詳細は後記のとおり）

（6）顧問挨拶

（7）閉会

4. 評価の変更の項目および、今後の取り組みについての報告（校長）

・ 1 建学の精神・教育理念、教育目標

例年通り4評価。特に変更等はない。今後は新しい時代に即した見直しや情報を収集する必要がある。

・ 2 教育の内容

例年どおり4評価。大きな問題点はない。

20-（リメディアル教育を行っているか）授業についてこれられない学生、学校に行きづらい学生、心の弱い学生がいるので、補習や補講などを実施している。また、学校に来られない学生に関して、オンラインを活かして、自宅から勉強を受けられる体制を取り、復帰を目指している学生もいる。

21-（他の高等教育機関との連携講座などを行っているか）宮崎県のグループ校と連携を取り、オンラインを活かしたeスポーツの対戦や交流をしている。

23-（教員の研修計画が作成されているか）教職員を対象にハラスメント研修を近々実施する計画を立てている。

・ 3 教育の実施制度

3-（図書室・図書コーナーなどがあるか）項目を削除した。ネットでの情報を入手で充分、KBCCは幅広い分野の為、必要と所の十分な確保は難しい、近くに図書館もあり、そちらの利用のし易さなどの原因が推測される。

・ 4 教育目標の達成度と教育効果

大きな問題点はない。結果を出す、出口を確保するために、学生指導をしていくというのは非常に重要な事で、専門学校としての最大の使命、役割である。

・ 5 学生支援

24-（進路・就職に関する支援体制は整備されているか。）

昨年同様、3のままになっている。教務の担当教員に依存しているのが大きい。就職支援の担当者や就職支援室などの設置などの学校としての体制が今後整えられたらと考えている。進路指導者を置いたとしても、KBCCの分野は多岐に渡っている関係で、進路指導者がそれぞれの専門分野での就職サポートは難しい。

25- (学校情報を保護者に周知しているか。HP、学校便り等)

定期的に各分野から情報を集約して、KBCC 便りとして保護者の方に情報を発信している。

進級後に、学生の情報をどのように学校生活を送っているかを保護者にご案内している。

・ 6 社会的活動

1- (目標・計画に基づく社会的活動(地域活動、地域貢献、ボランティア活動等)を実施しているか)
年に1回必ず行っている。全校学生をあげて、おはら祭りに参加している。学生も学校付近でアルバイトをしているので、それも一つの地域貢献だと考える。

5- (学生のボランティア活動を奨励・支援しているか)

特に公務員科に関してはボランティア活動をする、2次面接の際、ボランティア活動をしたことで自己アピールにも繋がるので、推奨をしている。

・ 7 管理・運営(各校)

7- (定期的に防災訓練を実施しているか)

5/20(月)に防災訓練を実施した。一時避難先として、中央公園へ避難し、その後、公民館へ移動し、消防署の方の講話を受けた。

5. 討議・意見交換について

各評価委員から、様々な視点からご意見・ご指摘をいただいた。

■新委員

【2】教育の内容-22(企業・地域・行政との連携を図っているか)について、行政との連携について気になる。

(校長) 公務員科は行政と連携を取っている。

(小園) 現在、毎週1回、実際の公務員の方に来ていただいて、仕事のやりがいや業務説明などをしていただいている授業をカリキュラムに入れていて、本日は税務署の職員の方に来ていただいている。税務署の仕事内容や試験内容などのお話をいただいた。先週は鹿児島市役所の方に来ていただいた。事務系、公安系問わず、毎週1回は呼んでいる。

(校長) このように行政と連携を取り、学生のモチベーションの向上や選択肢を自分で考えられる形の教育を行っている。

■押井委員

【3】教育の実施体制-4(学生が利用可能な参考図書、関連図書は備えられているか)について、4があれば、3は必要ない。

(校長) 学科ごとに必要な参考図書は購入する形を取っている。一箇所にまとめておく必要はない。

■押井委員

日本語科の学生が多くなってくると、そちらの方に非常に力を注いでいくと思うが、総合ビジネス科の充実を図ってもらいたい。そして、人数を確保するために、目標設定もしてほしい。

(校長) 今年度、総合ビジネス科に入学した学生は12名いる。最近は横ばいで、12名前後の学生数を維持できている状況にある。今後は、この人数を下げないように、むしろ上げていけるように、維持向上していきたい。

■久永委員

【4】教育目標の達成度と教育効果-14（卒業率の目標設定をしているか）について、目標の設定というよりは、「卒業率を上げているか」というほうが言葉のニュアンスが正しいと思う。目標設定というと目標がかかっているかどうか分からない。

(校長) 退学者を出さないのが、最大の目標である。そこは意識して学校運営をしている。

(久永委員) 言葉の意味合いについて、目標設定をすればいいわけで、卒業率を上げていくことが大事である。

(谷川) 設定であれば、何を設定してもかまわない。例えば、設定を「卒業率を90%にする」としたら、90%なんか簡単に達成してしまうので、“目標設定”ではなく、“卒業率”という言葉で扱ったほうがいいのではないかな。

(久永委員) 目標設定をしているかよりも卒業率を上げるのほうが大事だと感じる。

(校長) 学校内で打ち合わせをして、次回、この部分に関して、報告する。

■押井委員

進路、就職、資格について、この学校を卒業すると必ず資格を取れることをアピールしていったほうがいい。

(校長) 現在、県内の高校に訪問した際に、挨拶も兼ねて行っている。

(押井委員) 前から何回も申し上げているが、強い繋がりを持つために同窓会を実施したほうがいいのではないかな。

(校長) 現実問題、これから同窓会を作るのはなかなか難しい。

■久永委員

【5】学生支援-24（進路・就職に関する支援体制は整備されているか）について、どうしても3を4するために3.5になるための目標を作らなければならないと思う。学生向けにキャリア支援セミナーやキャリア相談会を実施するなどしてステップアップすることが大切である。

（校長）このようなセミナーや相談会が実施できるかどうか方策を検討したい。

■新委員

【5】学生支援-15（定期的に健康診断を行っているか）について、学校の中で行っているか。

（校長）私学法で定められているので、健康診断は必ず行っている。本来だと、4月に行うはずだが、場所の確保ができなかった理由があり、7月に実施する予定である。

（新委員）学校に来られなかった関係で、健康診断が受診できなかった学生はどのように対応するのか。また、10代のうちに、気づいておけばよかったことを30代に気づいて、、、という話を聞いた。

（校長）一応受診させるルールはあるので、学校へ来るように指導はするのだが、学校に行こうと思うと、足が止まってしまって、やはり行けないということもある。

■押井委員

障がいを持った学生は在籍しているか。

（校長）昨年度は車椅子や下肢に障がいを持った学生などがいました。今年度も多少、障がいを持った学生は在籍しているが、歩行に問題はない。

（押井委員）障がいを持った学生が6階から避難できない場合、どうするのか。

（谷川）車椅子の学生が本校に入学した際に、そういう学生を抱えて降りられるような避難用具を購入し、各フロアに配置してある。

■久永委員

防災に関して、企業だと災害の際に安否確認ができるシステムがあるんですが、KBCCにはそういうシステムがあるか。

（校長）現状は必要ないと思っている。留学生は学生寮に住まわせているので、必要はないと思う。学生マンションに住んでいる学生も一部いる。

（久中委員）連絡手段があれば、学生とすぐ連絡をすることができるので、連絡手段があればいいと思う。

（谷川）担任制を取っているので、学生が学校に来ていなければ、先生が学生に連絡をすることになっている。例えば、土日に災害があると、今の体制では安否確認は難しい。

—以 上—

記録：中條